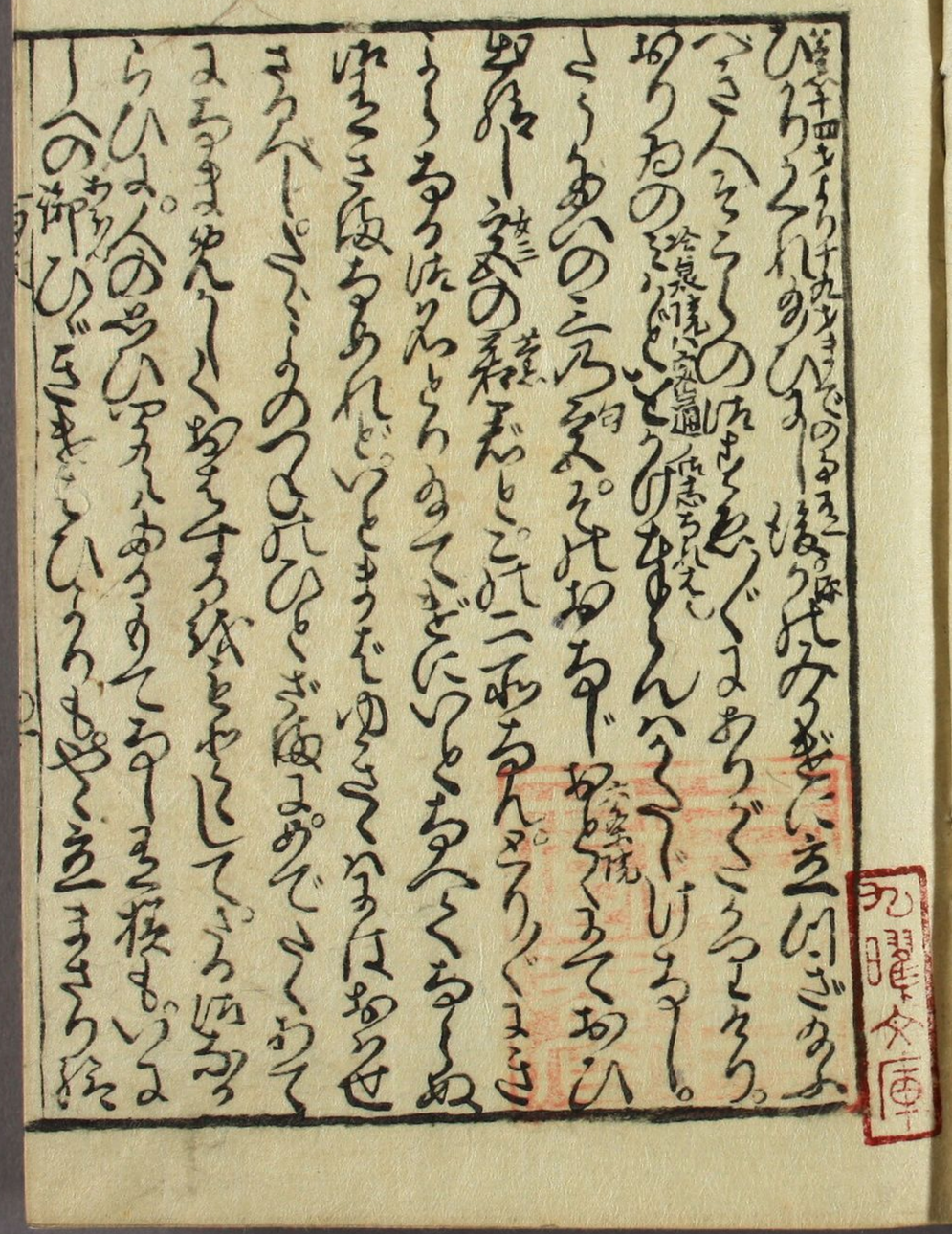
小倉山人
紅梅
竹川

十之



かはきてこさわらんをばりてこちれてもあるまじ
うとも思ひていとうつくしうづきやかなるの子
らんのをこうちまもれとものばりのあつらみこ遊
上達部の御ムつくをとてきまちひの御ぞ給ける院うく
きまして姫ぎみ殿ぐひのへりしたてぐちなく
うあるよりこまくさまをみうどもよりのくうけろひ
のひまよりぞ花ちる里とかしいあの院とぞ思ひて
うらぶれおそてうらめひまきろへたの交ぶ二条
の交よりおうちまあすぞまざきぶへうちちよのこさふ
らひ給へど院のうちちさひちくくまくちまちり
すけどもあのあるとぐひとのうへまてびうしのさ色

をとんきくすとびつける限の世にんぞなりめてけり
きちうちうへのあるのあのちくあ行給てそ世ぞ
らひもつるくうのちいぶと長こうれさちう
あるぐをぞ我うふあうんうざりぐふこの院あうさん。
ぼうり氏知ちるぐぼひとうけられこつまぐうと
ふうの給こをてうぼのまちまふ氏一条氏
をうこうちまうをあてちん。条ふあ条どあとぼぐとん
十ありづうりうしうすこ給けりこ二条院と
てぼうりみぐさ。六条院のまに氏あるぐ院てそ世ぞの
きぼしむのまふもつぼひどりれぼ十ふのくあり
きりとうておぼれうこいあまこのこやうちり

のぶうまろをつれてあつひめのみこのぶ
ぜんとしたまふ。若ぶんをこそのまたにあ
るめんくもなくとのくおまひきあやんよつこう
きうりのみまし。五郎のぶへうやうまてこまり
のみくまうばううぢうんぶつうてぶうう
まうりてなくまし。つあるいさてもどうりつさ
て。秋ひとをとこをうあべさやもるてるぶ
いのうとぶうちあくあぶまるまうどおきて
ぶおめのまうれ人院をとしいきてめるくぶたう
くようけてもせうとぶで火をけちうやうちに
ぶもうへあるさうぶれをあるまうぶうぶま

ぶ。廣のうちれ人ぶいぶれうぶぐうやうちちどいさ
らうもこさうぶ。寢るぶぶとばうりのまて。
まうれしくまれのこれぶうぶ。ぶ。
ううりうとつけてぶ。男ぶれのまうちし。
まれれのぶいぶぶうあぶくうあもしぶまうさう
ぶよるん。ぶれれぶのぶるうぶえ。院のまてつきあ
つうまれぶ。院のこうどぶうりうてあけうし
つさぶさいのあもみてもあどあるまぶぶて
うあけうるふぶれうさぶうぶまのあやうぶさ
のぶさうあへうぶれ。ぶるども。院のてぶさもうぶ
ぶるのて二月ぶ。ぶぶ中ぶるあて。

はくさうだつとれかゝるとさへづつこれはいかとうえ
まうかうそれくさくくわとちびさを給おりしまうと
おうとぐらくさまもぢさしとみつゝひちどぢつゝ
はらんじいれてづくさんもうくんをばつゝまで。
とぐれさうをそうくうこのへ女はれうこさうと
ものでゆくさてのへさせものつり給　もうやうと
さうくゝ女世界の中ゝもどくちくうあそやうよ
やうとれたぐれうつくさせつ。院のくちを
給ようけてぢをくあるとうくゝのぐくこのぐぢ
らじうくさはあゝそうひぐさにあばされるつり。れ
段仕のおはいつとのく女はとくさくゝしは脇よ。女

文くで一わおくゝけつをちんと給ぎりちくくゝづき
給はれありさ海よとをくゝず。さはさひの文乃はれおれと
の弁はまのくうり給をくひるくそはちどうさし
をとみくまでちんゝや給ハくれをこるひ
をきづくみてぱはくとはれをくくよくて
びのはハ溝おりくれあくと紀はるこるこぐ
つをくゝまてづれぐよおりまをばえの出給
をゝうてはやのやくよゝめのくさうけよおが
くくればゝとを給て院くるくちくるめまゝ
くくぢ出ぐもつぐさくのくやくちとちくくさは
わくびぐれくてとちひのへばゝ給まのちくくち

しうていとで分をあてゝ[illegible]
おづちにはの[illegible]
ひとりもこつくれどそうべさ人のあ[illegible]
ことのれうをあてとこ[illegible]
さゝゝゝくさすぢあれば[illegible]
てゝとりけることあり[illegible]
うやまゝゝめこゝひゝ[illegible]
げうさいゝの我分よ[illegible]
てゝれとそびごろ[illegible]
まばつあはよとは[illegible]
まゝてもゝゝめ我分で[illegible]

[illegible]
ちゝずおちるをゝゝの[illegible]
くはうれはゝもちをや[illegible]
たんうてゝのはゝ[illegible]
ありけることれぐれ[illegible]
かありきんびとまま[illegible]
はゝびべさことれさて[illegible]
ゝゝうゝのちれちあ[illegible]
ゝうあれどもゝ[illegible]
さゝつとれ程よゝち[illegible]
うゝさ[illegible]りんゝとゝ[illegible]

ろ見てさぶらふ。それこのほんちをとりてあるべ
くハ後の世をとぶらふ。初ものがたりさぶらふ。
やもうしめしよりもそばをれてやるどをしてゐる
よ。の様ゐへてもうめいりんをまたんつきてえ
脱ハ拾うぐり給それどすまひとてもどのづゝ
世中よりてあきられてきむゆきまでゐるやう
あるほうれぐりもんくようつずのゝをばりあり。
今ハ
うちもゝ
いと表ものよ
ようひ
であそび給しのりてあきくあゝさん給

いずれもあてんぐうりおとるもう
えをとりめくとく。院のえのの様ーとゝ
えを給ゝをゝもゝ
もつぐほ元の見ゝ
ゝよやんぐとあくりて
給ん元と四九しいさゝ
ゝゝ給人ゝちゝひ
あぐこほしんぐ海
ぐゝめ給ゝおゝひ
すりてゝぐめ給ゝ
まめぐりしをゝと

世中とおばしを
ひるれはひりをぐまゝゆゝ
ゝゝゝゝゝゝ世のゝれゝ
ゝをとくゝもひて。娘の世れ

はなをあもしろくとうらうぶ。ろうぶさうぶ。ろうぶ
て久しくのどけさはんをさてあるこそあるこごと
の春のなかでこうこうせいせいとしてをさてぶぶ
さうとこてのあくちあるごそ知しなぎよさうべく
てひとこせいのくとはばうぶうぶうぶるとやど
まうとうとこゆうこうとそひのくうぶかうこうちを
そこまうふとごこちんさとごれさうぶれさこのうと
みあうとちあるぶぶうとうあるうちうぶう
しぎこ。くのあくあるうぶうぶあるをこひくあるぶ
つこうぶうぶうこうこそこ。ぶ世れ旬ひあるこぶお
やこれまでうちあるまひのうるおううとどくあ

ごうぶ紅のこくこ風ものとこ石蛾のかもうは
つまめごさんちしけうぶ。それまこうこうこ蛾めうはうこ
梅のごとやうれごこ。さごであうちあるやくあうこ。さ海
ごまこうれひとくあのさんとごうひ風こすべう
ううこごくうこうこうちうまでうち出こうこんも。
地のうあもあうこきはのめこさぶ。これあうまうここた
ううまごうてぶこくこうもつけ紅うひごぶまうこれ
はうこ。ごつこうごれうれうこれごりこさ。えのくふ
こうこうあるれ旬ひをこうくあまくれれのまちうれく
ここごけ紅梅の書くくはこれこあるこかもあれがう
もうくあ。妖のこ。ごまこめこあるれふちごうあるとも。

とのゆうへうれてるつくさ迄風とにたる西
うしちんまさりやるつくあやまちにまで人のそうぶし
おううまさこの号をいのうつ名ちめるんとくくちもいど
きしくえてしてそれハつぶとあはさぐれるうりを
ちあ紅紅のことつぶておこをいてとあこおまへの赤紅
ゆとも。ちハ梅の花間とあるつめ紅紅ハ人のあづるあ良
花さとそれつまじとめうえ秋社家のうもおさくはんう
つし紅紅。光を長うてうくしまちろへかくあづるろ
肉とれぎるれまれもうあどくハいとこすきほしき紅ぐれ
のたはハまで。えうてうずあるぐつぶとめうさうてうくめ
づうぐとちんうてこのまうしうあえしり

ぐらかつぼど。ものさびて。ものさびて。しろうびやかにすぎてもそ
ろそろうそろひうれんあまくうとぜ世人もぜんぜ
えうう。昔の源氏ぜんぜんくうくうそれこ
とくやうぐうう。ものくうそでちりしう源
中将はしめはつひよりつおそびちどうも
ぞしうよりの桜花ちそびてげようどまーんも
ろうさどもぜうしりべさんのさ海よちんぜ
のの世人ぜうふ音ぜうぜ中おとどそうてそ
はぐはけてそのはうそうきもすえ知をするやんごと
なれぐはけぐぜんとそめれはそうそぐちるそ語も
あれぐはうふはさ海くよ知しうをそめべさはうう

をべの語うそ。人のはけをひそ桜をちる知をと
つ語はぐとはんうはけてはけをうぞやとにちう
つそう。源氏の女院の女一宮をそぞやうはてもん
なしぐやひそちんうと。ぜうう海女はもと
はとそもくんぜうそうそ語をしはあうはて。姫女の
はをうひげとわりぐくをぐれてぐうそれさそ
えをはそうすはそてをそうちくもさう
ひうれうる女房ぐはるぐはんぜうさはる桜のごとは
はれてぜうそうちうぐもはうふぜ白ぐ西びぐく
はぐとべはり中はは世中をはくあぐきちるさ
はうそうぜまうそ心はれぐはんとぐめてもそは

まづ、ごさうやおんなどもつよづくりこさう
あらんあらうまくづくらんいばくまくくちどう
をて法ざーあらてんなよまべさことれちれほど。
さうぶけのやあうまん。人のゆるーちうんうと
ちどいなのしてうらうべうもあうず。十九よめ法
とし。二位の宰相おまて牧中れもきれ法きび。
今こうど和のはりてちるよ。さて人今のてなぐうちな
きめでうきんのおばこすてとれのへどんれうち
よいかを。をうううきて地表よちどもあうれ
だんつまうきてうやらうちるうすうきどぬさくこ
のまずうけのうとうべめつどものづくうあよ

まけうろんぐ面とん人うもうれのへうん。三文どし
ようへくんをてごうきぬめう。院の姫宮の山あく
ま法うろうふもひとけ院のうちよおあうれ立ち
まーのへうとれてうんのあうさ面とぬうちなう
よんどうよつとちべてちるべうぬまてゆくーきれ
りてちー根ちうき法。おうまるべんけうやうか
らんんへとうんうこそ。ぬりう根のんぬくべうつまちか
まを立ちるべうぬうこうきうへうべうかちくえて
れ。ひめ文の法てうきぬ法べてぬうちくけど
とくちるうんさ山法ちも。とうよわうーりれど。
あちべちうもまべくひううずぬーんうちか

のんをつぐ[illegible]れる人をとりあつめてこれを
つとめくぶ地ちれうことをちらけりぶ地ぶのくんよ
めでたまうんとぬぎへるうえ秋ちれぶちれくちるど
のえ[illegible]をちらくしなあうちぶよあくりてもか
ちくんちくちびさやちちるほどにぶのびうう
ちぶさりのうしひをあまくうちるをんのえん
まうとくくちどりてちうぶとうくまぶうへ
しをちちやちくちるうめ行のゆくん
やまうさぶやうまうんうぶちれてこ年のの
ぶよまりあまちへあまくありつれちうぶうう
ちうしをちちつぶちあれどうちんうへんぶそ

ちびやうとびくぶもあうまぶうちうれんぶどりぶれ
こ[illegible]ちうよあのこぶけうちうぶうちうぶまうと
ちうくうぶあうくぶのちうくぶまうへの
ちんうちちうくやうちうくうちうちうぶ
しまうん世の限へ行ちうちうてみちぐさうぶのちう
ちんちうんをぶうちとちひのうへぶのちうとうの
まうりれしちうぶあうちちぶうちうぶくちと
んぶぐしちうぶうんうとうぶうぶちうぶうゆ
うけちちうちうひちうちとうちうちをぶこの
[illegible]ちうぶうちうぶちうぶうちうんうの
ちとあうづぶうくうぶやんぶとちうさ

ちうもの（元禄）は後のものぐらいの元とうぶてとものぐ
まてはいしぎにんぐるどもさうひてはひはは
とぶよれそのおそめざるるべきしどくあさ
らうさはんぐうしうそのさうあひう
ぐさもめへられでさうぐうさにむくへさうてなり
めへうぶざといるくてぶんぐよそをそめてぶるる
らず心でめはてんぶんのあうさるをまぶさうんを
ことにそあるべくれるとそうてぶとうぶくてう
いりてるはうぶぶまえうくはうさやにぶの
ごのをそはてぶんの心ひきんゆうりるくはく
ぶとるはぶのうひとしはうんうあうぶれまうを六義園

まてぶいとんぶとにはのあてぶそこちもおいしぶさうを
んのんぶうひしまうりぶそれはうこうちはうしらふ
はうすうへみまかさうくしひはぶきうさへぶうられうぶれ
ともるくぶひくくさうぶにはうそまうすぶゆまも
この（白）はうぶのえへはぶにひとそぶれてこうるうえ
えはうふ（今はられはし）のこうこひくうらのえとぶるるええぶう
のもこうるうしまやぶひそうるうとそうるへう。
きこのたうあるるうちはうちめぶこうへうくうと
まそくぶひれまうぶははうはうこうちはぶ
らうのえうるやとぶひうちはれはぶ（ぶ）
てまうぶはうまるひうきのせはうり
ぶ（白）はぶまをぶるてぶとうくま

うで結よりけつと。ゆてこそ遥おつまする法をとらりに糸
つ結までやとぞとと兎さをてはこれ三天王三ノ宮より遥に碧格
は納元ぬ年ぬどさ〜めこそ遥アあまこそれ
れよのうまぞろぞ多ぞちひさて。六条院へおりす。
たのやく祝ゆこに宮つさうちりてぞんあるこそ
れぬやこそれて寄あり〜こそ程よあきこそてあそび
ていう結ぞげるこそとまてくぞちゆこん松の流
ようやうれありあのんやうぞ結ゆとめんとん
えこうこんこん殿の南乃ひさこよつひのごと南むに
よけかあつきこありやむきたむこくこんこれこ
こちこそ遥アれ流ぞあり流ゆうこのちとこで

まりてゆめ面白くちりのよりとめこ舞こく
こうれろ神ぞのうちうへまこ風よれ春ちこく
梅のてこくはころびこうれこ匂ひのごとあり
ちうつこれうこ遥め中おのれりのぞでしく
りてこやこれでひちこず面めしこうこの
ぞく女房ちどこやこここあやちくんりこる程
ちれどうれここびこるめくろこのちうれと先
てあへうありでもめでくこと程ぞこちこういも
つこうまこうてぞれぬこ面よあこめこうこてて
おしかこひも数ムつへのへぞうこまこうこどこうや
との結へこぞまくこうぬほどこ御のまこちど

薫サヌの春のうた

後紅梅大臣也

そのこゝろあせらたゝんとこさくらゆへ
ちるをこゝのこゝろにたとへらるゝ世なれは
のきしつゝぎよりもとうもとらうくゝ
あやうるをんなゝ
ぶり給ふ月よりてまいてゝ世なる
うひあり
つそやんごとなう
給ふ
ら

蛍

ここう物語てのちまのひつゝ紅梅ひ結しうゞ
年月のれどえさしもこゝろ結ゐ物ぱるゝ
八月ゆ雪れ結ゝゝもこゝのゝぎ物ゝれぱゝぐ
しゝて沖仏ゆのりてぱゝまゝゝゝゝゝゝゝ
ゑひとゝまゝを結つゝ蛍たゑのれてゝこゝに女ゑ一
ゑおりんぱゝぐてゝとゝゝ今ひゝ蛍ゝゝゝ紅梅
ゝゝゝ結ゝゝゝゝゝゝ敷方今ゝゝゝゝゝゝゝ
りゝもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ柱柱ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]人[illegible]く。[illegible]ぞうは氣[illegible]あれど。[illegible]（紅梅 明石）[illegible]
ぐ[illegible]ま[illegible]ぞ[illegible]（明石中宮）[illegible]ひ[illegible]
びさこん。さらとて[illegible]ひ[illegible]きをんをひ
[illegible]ぐし。[illegible]ぐ[illegible]ゆ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]ぬ

ちりとの給ひあがりまいりてうぐわれたことを
いとぶ給てまた其外の給ことをいとうとわづせすや
りいでさてあはれぐろぼんの（盆）のあれはてたる
ねいてくえんてやこみりるぐさんれしとも
あらあんとぶのうらよいのうて（嫡女と春夜）
あいいとうためさ給すしんごさぬうたれ
まぐらひのちん給とわたびたうぐしきれ
うたあなくてハいうぐどうて。（桂姫 嫡女）かたひてさよ
らひ給へぶ面とたぐらもおくこうづき
うたうとさこう給。（紅梅）あはれぐちうらて。
あのはうはひとりよるくひ給てぶとさぐ

ちうあがり給。あのひめ（姫方）ごとぶとくくし
くくにけてちり給でぶうくくひとうとうよ
はとあのあるとぶ給ぶ乃はとるくひぶとれき
はあうびつぐとまぶあるをかのやうよとさく
てでうをまとちくひあうひ給けうぶ（姫方）ぶとうとせ
乃はひあくずたて。（桂姫）母かたあぐにさやうかな
さくはくむうひちう給ふぶかうとるよ。まてと
てちり給のうくぶけうとひれじはれうあ給
ちくぐあぶやうつさ給うくとくとくぶ。ちうとは
ぐれ給うぶくうつきいうやちあうやと。（嫡女）
のくぐかさくくぶいうぐやうちうとぶ。（紅梅 姫方）
ちうとぶ給て。

さらぬべうんさ海ふ芝つ
やとそはくまつ
さらふさやうれ世づさ
あめ方らさるれば
ぐしうるべしはもく
つとふんもんおちぐ
ゝ紙そしくうそて
きれをとあくて
ちるれてはむをも
さこ紅梅はづきと
ちとみだやとゆう

[illegible]

うそれとうゝみて心べきはびのうしやと
のぐきあうさ紅梅どゝ
ゝもう紅梅ふ雀おうほどいうらうて
つとうべさ紅梅とくゝ
るれんうくゝそあと
ぬ紅梅へば方へちど
ゝひちとあてびおう
らまておれはあ
ぐれひめ方ぐらと
この方ゝんもまち
中ひうさうち紅梅

[illegible]

ものびやかなるかをまもるのびらゝありぬべうるど。
いとぐいづらうものひさこゝ侍。（陽門）ろあんとゝ
くゆさはづゝさ行るぱゝことのゝまもとぐにうの給
ゝでゝくゝぬ行るゝゝろ。酒の方よりゆるひ（中黒）ハ。
びゝ侍んゝいて行ゝぱゝさるまゝひびゝとうはべく
やゆゆゝ行ゝんゝぶまゝゝこゝはよゝゝろにゝさゝゝめく
ゝさ物のゝまゝづゝゝるゝゝおゝゆゝゝかゝびくハはんゝとゝぐゝて臣
へゝさゝ侍へゝおゝゝれゝゝゝうゝゝゝ

のことをゆくゆくおしうけるぷであそばさうんや。
はしとまいれとの給ふ女房とゝのをるとゝのをるも
おさくちるぷいとつれなどらぶぷんくちなしと
とゝのをりもぷんぷんせてゐるれどもさうあ梅行ゐ人さ
へくゝのてゐるんぷやまうゝめゝとゝゝらゝ給ふ陵
ぶゐうらゝまいゝんとぷけるすぐさうて寄ら給
つるぷぷざうぷゝりさみぶゝゝうもぷいとおし
ゝみゝてぷゝぐゝうひゝてとゝ梅行ゝゝらぷまへ
けゝぐんよれ梅行雑女とつけさゝて給ゆづりさゝて。
こうひゝえまゝゝるまゝぐゝぷやまゝゝくゝるんゝき
あゝゝうのゝまひてゆゝゝゝとゝゝゝはゝゝまゝれ。

もゝれどぷれどんよれれあゝうびゝゝゝゝゝゝゝゝゝこ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一枝ありてよろしけれ式ろんでまろうとてあそれひる
ゐんじけれどもゆうはさうれけれさやうるぞたはなと
せうとうぞうあてうやうみてまぐらひるれさ
こしこしてぐとくとたまうはるれけれ白薫ぐらを
ぞのへもいてとこたまさこまぐたへよめでらまん
とゆはつるはありさはあるれぐもぐこがつまも端
ゐこはるこあれぐひあしじとぐこさこしあの
ゐまこやあるとうんだうこみてこたまるもも
あくせおくうれうさけぐうれたんのとこれまう
ていきめぐくはぐれ命ゐるれあしじうと
こそあぐとはれあぐたさこたはてぬあそれよ

そぐくうひめぐしあれはつ地めてはあのびぐれ
あぐくはあはもていうぐまはくははぐははんむ
はあはさはるこはゆ白はぐうはそはれ
うれはたうんはあぐうはあるんぐえこあらえん
をぐこびはるうとうこぐぶうしきひぐうはあう
ゐるはやこはまぐはこるけぐたこをうえんとこ
たあのあかうたこのうの梅はまうい
ぐひものこはぐあるぐさ地はこたわやぐ
うこてぐれこのあとこうぐふうまぐはうこ
みてはうこははわ大はるれんふはこるれここ
まはこうとんばうるはぐまはうはあ

中ごろのこと乃ぢうりぼうのおとこ
ゝろ
ゆ出ぬ程ゆ度上ゞあまてこ出をうり
まうる中ゆ三条院
うくなるでゆ。白川ゆ出うりぼうるゞ乃ぢ
ゞくゆでうりゆ。白川よゆ
りまうすとゝのやつれがうぎまうりぼうるゆ
ゆさゆゞちうる拾ゝ
まうぬゆ。白川ゆ
こゝろとゆくゆまうるゆゞとの地これ
てうらそゆゝひまうゝ
ぢうでうりとゆじて。白川ゆ出ぬまゞ

少し陸奥もそらゆるされなるあめつちにたゞう
なるはまと分めりしもはやきてひとと
海ゆめりとのくさまへだ陸奥かはさも海つりしそ
ふくうりぶおまへまはーめをゆくさそて
やれば我ど人げあり人とゐるれると
おくとりちりされどやてくばそゆめも
さおちすずぐうそしをとさしもあるはおひ
りひ海ひてんやとこのびてかくひさくよ
ちとの海つりでおこの花をなれば白ちゐそて八
らをてのちかまりばそうちをとうぶはらんす
ぞくさは海ゆるかぶさるるもはつはるすその

みうゆつる紅の矢おかうてれて男なんもろき梅
このハをとあるといはめるとこうりちるうで
もさ紅きるうれうて。海ろ花れ
ぶひわりてをてやし海ど白秋いこのねあめり
やどこあるさまをゆりうれば緑ぶうみもえ
まへうば花をそうばくさめべくうでーふて
げちくかを海つる紅ばかるきあるちはたぐ
ひちくうまーくあつーくはさもこの白のこれし
わふ海ちどそうぶうはうひ紅べぐりし。海
すくうちんんふちどそうぶそちりしのれとら
ゆをさーねたかうんのれ中をと白ますりをさまれんぞくさまれをくへあ

れと。さうでなくあるとき。ぬかへてぬかへてぬかへて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

どゝハさてもみちまうしうつ切ひ元と
をくなるゝ分てさせ法ひちゝ。桂桂さのゝ
切りかしゝ法元ぐあ車ゝいてうゝ文
めさ法てかゝひ法ちのひゝ切ゝ。八の
ゝやのひめゝ元ゝまぽんゝぎゝあさゝゝでゝて
ちけゝうあゝでおりゝさゝ法ぽあのりゝぎちゝ元ゝ
ゝ法のぽゝぐゝしゝさちゝゝもゝぽゝぐゝつま
しゝゝゝれゝぎぽゝ法んやゝゝ切りかゝしゝゝゝ
をゝゝ白ゝしゝるゝ元ゝぎゝゝゝゝゝあのびて桂桂母元ぞ
ぽ山ゝ元ゝさゝゝらゝぐゝまゝさゝゝし法ゝ

ゝれいもんゝじの元ゝぞゝゝゝゝゝゝ法の
ひぐぼゝゝゝゝゝゝ

ひのもとのやまとのくにのうつくしきをとこをんなのすがたかたちをいとそぎ
はぐくみたてまつりかしづきたてまつるやうにぞ
こうるつぎもりりくしはひいろえ
ちくおくもしはやとぐのほうぶぞもりくけけくあ
うつはものやうじ法とてこころぐそのさこれはとろへ
こしちはけきどぞ。ふくこのまさ陰ふくるやうた殿
のうちもあやうまもりゆく。むんのまんはちちゆ
りぞそそくそいふひろごりすへどぞやや
んごとなきはのうくひのぞとうもとくく
うくさりしよ。なほ殿のまさけもとまれむう
くちさすぐ法ぐりはけはなどのてぞとれ法こ

とまりけるゆうりうそこれもうんるつくうきき
そそうのひ法ぞ。源ちなほ院まさとべて牧ぞ目ようと
らずぞうじてまへそそうをのひるん姫のこと
だ源ひとき法ぞるはそそうぶんのあくぞもとぞ。中略
のはつきはくそくなりのはれぞのとほちとぞ。中
中そのんありてざるべきはりくとそどれぞそ法。
男そんぞはけぞんづくるどてそのくはとるび法
りうば。殿はりをて姫ぞりとるくまるとこと
もあれど。そのづくるりりでのめべあり。姫むこ
ちをいふりてるはなきんとはりそどるうち今上
まるるるざるるづくのかいうきとと。ひげはおとぐの

そもそも遠流されば、今上のびやうぶんうと年
月をかさねてかへりのぼらせたまはざりしかば、
ど中納言のいとくちをしがりたまふ。源氏物語
をきこしめしてこれをよみたまひ、紫式部
をもとめさせたまふ。女房文衣遠
ものしたまふべきものをとめしたまふ。
づからこそ、今はとてうちぬぎ給へ
んとすれば、ぬぎ給へるべきにあらず、泉
院、うちとかんごろに、なほ、この物語をもてうんの
の者ひとりをくしてゆかしがりたまふ。
しうとうとのたまはせて、汀
まづ、さうしにかきよせたまふ。

きはやうるはしくてゆづりまゐらせたまふ。
ゆめのようにひろいにはにあるべきことにあらんと
うのうちにあるべきすくせにてぶのかたち
づきたるとあばれ、うばづくしうつくしき
ものやうにんじるもをかしき
るどうぐめつのもとうとうおかすう
えありてんりもを結ひとおはうりぶのもとの
義人のかねとりひ、雲間どのくにとく
て、見ぐるしきもりもぴさこうづうづき
結へぐるもいとあり、義人かねと極んじるを結
ゆづりまゐらせたまふ。義人かねはむすめ

ひるれんぞのえんぐちのひつじまいりのひるど
すわばけこそくもてちる。なるぞ。なんぞまぢう
うるれうつぞふととうてゐるあうあ
つてぞうるひるあうりぬみうほさうな。
あうさきものんぐしてぞんのとれも学しら。
毎さてこのうれ結つてこもぞじくぞうう結ぞとうひ
ふうう狩よ伺れどあばゆるすすうやとうん。
ダあうぐどぞつて結ける。姫君ぐ編もとだ殿うてのさ海
まあばゆきて結ばずゆの君とちんゆまもこ
しあのぞてうぐしあ初よるずうひあう
ぞうりやとあばけるぞゆう結ずもぬもてこも

そうりぐぞもてつけうまでぞうりとうあうさこと
とあばうきうひどあぐこのんゆう結うあことの
まうされあうんぞせのまうとうこもあこつけうさつぐあ
まぐぞうきこうぐんゆまぞあるうこあやまうひうさ
つけまうことの結よてこされてうんぞうりうり。
源地 うみ寺院のはうこよ。朱雀院のはやは服よ
ひまうれのつりあ楽院よはるのやうにあぐ
うぐ四位の伺浅ぞのうう侍四まぐうりあぞいと
うびうあうさあうるべうさはぐうりんぞとうさてあ
とあくこうぞめやまてくあまあうさうりあひうに
あくみ結ぞんの君ぞこあてもみうはまくあ

ほうこう[illegible]ばかりのこゝろ[illegible]をいとしがるあれ
ばさるべきものくのあるべし[illegible]ばかりまことにてこ
えあふぬぐおろんそうくさ女のおくするをるんべつろ
き男のんづひとめるうみ[illegible]ぐひさ[illegible]ふゆ。
うちのやうさいたれ[illegible]ぬ義人のあるひう
くんそづうせうてるまいろうこゝこの[illegible]
伝の[illegible]ふろ[illegible]ぬ[illegible]ふ[illegible]ぬ[illegible]
のはをこひちうとこひるすがとろうやあ
んせゆーまとのづくるんてうづれまつくんるうつ
うさんどいんとてあてうんのとれもがひこそ
ゆやとそれるとのあひてぬつくうれゆるこ

るどす。院のはんぐこひいでゆてぬぐこひ
よるうつくうのくあるはゆうれてのはうこ
もうれもうはこもなんのあのあうぐごとくしき
はどのていつでるくあんもうこもをか
どのてくくうれはくよひゆのまれぐ[illegible]
[illegible]るるべきをよひてまいうあのつひれ
きべきまくすいとうこうびまうこそ。
宮うこのうきんどもあくさうぐくき
ことにひてびひるやまうりびれのつい
うちぐうんのあるはうれたれうれ
うの人と往ふこうさごうこひゆ。[illegible]納ぬあ
るどす。院のはんぐこひいでゆてぬぐこひ
よるうつくうのくあるはゆうれてのはうこ
もうれもうはこもなんのあのあうぐごとくしき
はどのてくくうれはくよひゆのまれぐ[illegible]
[illegible]るるべきをよひてまいうあのつひれ
きべきまくすいとうこうびまうこそ。
宮うこのうきんどもあくさうぐくき
ことにひてびひるやまうりびれのつい
うちぐうんのあるはうれたれうれ
うの人と往ふこうさごうこひゆ。[illegible]納ぬあ

まきぐらのひとつだてるがごとくなりあつうぶたの
ぶとぐどもぶたくさんとうがごとくひきうけてあるく
ぶたぶたうちうちとうどめてあるくあるく
のぶたさまあばたりぶたみぐちもさまぐらひとさま
ようもどうてこのぶたどうりんぶつうさんぶたもきぐつ。
ちうどうどぶたぶたんとうとうとうぶたのうえ
人のあたうづれうちうさまとあれがぶちまあ
あてぶたとあうぐがちうりぶたぐいれあてくぐて
て者ようぶたぶたさまあたのうとうるくて
きぐくもえうけぶたうぐぶたうずぶたのうずたまぶたぶた
まようのあうさまるどぶたあくまくぶたて

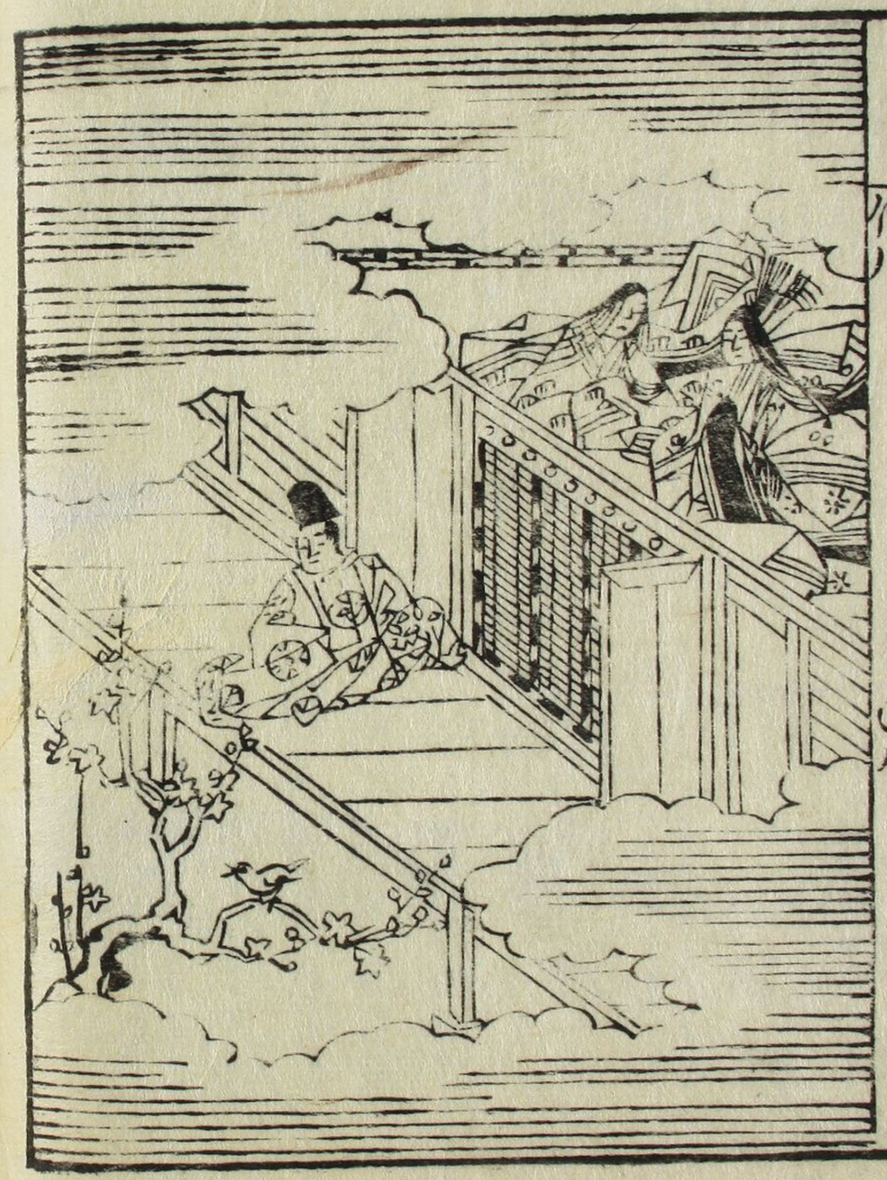
ぶれぶたんのぶたぶたまぶたぶたうぶたぶたぶた

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]



ぐんの五ぶのくるまをうばひとりぬぎすてゝ
ぐちやぐちづゝぎるるまめんどさんぐくそなもの
くれと思ひてのあるまるりぬべくそつけられを
きぐとくれしくるれとそひのあるべ嫁落
殺どるぐもまくをねばどそろぐまわうぐなそ
おひくらぐどんくれかしさやぐどもてぐのの
ちくぐさぐらさいぐでのくらぬぐばぬまさり
のくまくひぐ院まくとくくそなばくなくうく
きぐこの素ハよくくこ面をとくれくめとをくひの
くとまくやくくぬまくるくりてくぐのの空を
くぐくりくひやくくぐくくさぬくぐなくまんく

るどぎひぎきこのてぢちきれるの[illegible]地[illegible]退[illegible]
とまのりこりりりビしさ紙へ
[illegible]伝法のさこぢまわべのりん[illegible]へこはめでこりづる。
ぐ。[illegible]よりの伝梅の[illegible]ぎりりれこしとこひこれ
ぎにどりるきれぢきこはるりよ。匂ひきくお
て[illegible]伝法の法のとこおりりぢりめん入なる。
ねるーるとしてごこるりん[illegible]こりりぢれるん
とこひけりとひこさぐめこればひつひまへるちとび
らふかねるりこりぢこん[illegible]の[illegible]ありてよびかこう
のこれれきるこびれ[illegible]ぢりてここるるりぢく
ぬーばやんのゆりこれ[illegible]こりこひこぐめんぢこりこ

ぬばこりこれとぢぢぢれ[illegible]ぢの声よりめこめきこれ[illegible]ぎ
きるべーるへぢりもいとあどくーーとてひこき
つれてみーのここどのまへるりぢこどいのぶれ
ちとに梅ごえをりここぶこてこちりるをりる。
[illegible]ちもきるくぎとりこちりれべぢまどき
ありてんぐあすいとりこれあをこちぢ岳の
琴[illegible]こきこの[illegible]りここをあこをめぢこて
とこひて今ひりこんりぢりるとへしりこふをびんも
するくい海めりーりあありてるいきりるあ
こりぐりりとんこまりめれば今[illegible]ぢいとこりうち
とけてこるりーごとるどこいりぢちりりこどん

さいでうりぞうこんにゆづりてよわれぬ。彼岸の
さきこそうんの厄だ。彼岸のおとぐれ法師まをと
まるんぞうひあへうちとさてつるまやうに家
しくちんと云いちぶ営まさそられのへとの
あひぐこうれい。あまらえてつあらつぐさとあを
あしめをとさておさくんうまいうぐうきとを
あへうこえをいとひぐさあはくきやつよまるん
なうりひびざりしあやまれどせておをぐとを
あくぐとんぐうきうよぞうれきことれつあでもを
出をまうにぐとあん表あるぐをうこの若いあやし
うあた柏表の法ありきあをとうあぐくぐとの

ねるどぐでうれとこそてつれとてあひのふまあ
はあいのふまるれ消りうきうやうねもこいと面
あうてぐきこうきうふぐうこうらぐつきておを色
うう人ふまぐらひぐをのづううきこにをうはき
まてあそび弱よおうぐの俗をこおをぐあく女
をあへうをやうのそこいをとれてぐうづきをの
こをうきれいこぐきとぐにをんやとぐづう
あうれて作河をあるぐ声ようぐきてぐうとう
うれどあうーううふぐをのうちううーまを色
いづぐこいのをくそてぐあのづこをまはきをれどひづ
をとううづをとそて中使れぐありてうい弱ぐ

あしたふ位の行澄のりとうさあつぐれ行澄のすと
よようべいいとみぐらぐりうりさ流へぐりくよ流へき
んとぷうのへとぷぐうぷるぐちひらさてぷ〜よ
芸
竹河乃もてうちひでこうよ姫うさうさ後
のそこはちうさやとうさぷんぷ後よりてま
ひてこれり道ときのぷまたるどもいとあううもあうち
ぷうちうちんとううくさてのひてんぷあきるく
て後まもとられなうぷてん女三のまどけるうぷふ
しうてのれぐぷ紫へよはまうさるべきめそいあめ
道とてうんのまそこのまぐちれひるどあうさ
ととぷそづうめ後ぷうぐうとぎにいとつくぷべて

こびしまのやとちんぷづ
ちぐどの後ぷ
ぷけがはよう紫のうさぐとうそぐとうう
ちうりとこひとうまりしぷ紫ひよりとうぐめよ
てぷまぷのぷさりしよおりてぷうさぐこうぷふ
女三
ぷのとうれうまうとうるくぷれりんうさうり。伯
源氏の君ぷうきんちうよぷうりめてぷ紫
ひりびまりうこんうやうひよめてぷく橋れ
ぐちりうひうりぷぷうちうろうのどやう
よおぷうるさうぷぷるくとるくぷてぐうふ
孔雀きまるあるまぐるうりぷれうう十八
やおそうきんぷてうちんぐへよぷうぐめてお

うさぎ[illegible]ハつとあざやかなるこうしゃうのけしきなり。
さきのこのしてぱよくさくてこずえのうぐ
ちらつぞみてあるふ桜のはなそちるがごとあり
よわひさろくふわひのぞるつうさるくぞさるる
ゆすりてまうでおのづからのうぐきおちさらやに
ゆふぜりてるるどもちらくぞうぐぞうぐ
きげさんをひのつりどひとこそいぐはうぞいのこれ
ぐいろうそて柳のいとれやうよくとこぬい
とそびやうにるまえうすくうさるさ海をそど
ありうよんあうきをいまりあへれどおりひや
うるるをそひぐこれるーとぞひとどぞ基うち

ぞうてぞーひうひのうちりんぞーはぞうぬるとうち
さ海どもぞとこぞあり。（玉葉の）さぞんぞうぞ弦と
てぞうさうちうひ弦。（玉葉の）あるよの弦くうちさうのぞうき
ものぞ（同）ぞうのぞうぞくるるくるりはうぞうぞごのき
んぞゆうされうけうきやとそぞれくこれさ海
きそうう弁のうへぞまへうちうぞとうるるを。
中（左近の）ぞ文伝のいそぞうちりぞ弦うぞるとと
ぞうるうちぱとぞうるれつぞうるとうれくうまへだ。
弁ぞ（左中弁の）ぞのぞまりてうぞ（雅光卿へ）のえづうへとうるめぞき
まこぞのこやはぞうぞ。（雅光卿へ）ぞんうるぞや弦。（雅光卿へ）ぞうち地
きうてうぞーひてぞうるぞとおうしげるり。

[illegible]
[illegible]
[illegible]

よ[illegible]ぞありけり。儀へ[illegible]
遊ぶ[illegible]
のと[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
琴笛のまくべ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

きりぷうこうれいさいわいをうけるぱるどの
わくふれなのみくんよ。ぎりこくんちすまるこうあ
きんなちゃんがぐれのあるぎれいさやうちゅう
神どぱくぐとこれいさこうこうあのあやめしそれ
ところこうひまにちりあんのちれてこうみゅうん
まねしく自ひおぼくみこうをぱぐこうとざ海
よあり絵りんとぷとびくぐひうこうるぱりえ人
ぐのうちこうひこうをぐこうとしれよぐへこうお
うこうあ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

相とぞうきつめてうつぷたのうれさ
（うれさ）
梅ぞ匂ひあまくうるはしさでとはゆふ
ぞうの袖へありやパうろうさばぎぞたそうあれ
ゐどぷひはうす。（地）いつよはゆうろれくまぐ
さもぷ。ゆ赤うもろめうそぷ。ぷんのとよべうろび
よはがはて。院うとパはそうそこはぎたわうあ
（ときぞ月夕ぬべし）はうとくうくはぎ。へぶ。ぶうるのやぷへうたうたきと
えうとぷうりうりと。ぷとまくぎたはぎ。しの
まへべぞうぷれまうう。ぷんはぎぐいこのぢ
のはどたはぎうぷうりひうどぷとまめやうたきう
まふ。（まん）ぷうべうさうよそハはうすぷめとうあやうく

よのぢはよぐうぐぎまうあはぎうぷはでうとき
ぷぞうこうもをまのはのれぷんぐのうぞくあよ
ぷれのうれうれうきとまぐうぎはうれとうくぷ。
ぢ人のかはぷうあだうぷうひて。（ぷうの）あのうこをせ
めまれぷ。（ぷ）ぷうぐうひうて。（ぷうは）ぷとうきうきうきう
こうつうて。ぷはのめうぐうきうあうぷせようくく
ゆうきやきのまうひよちんぷぎ。ぷううこも
あうぐぷまううぐぷはあぎあきもまへうど。
いとはまぐいきうぐあうぐ。（ぷ）ぷうーうとあうれと。
うちゆぐきのうて。（ぷ）ぷはうるうとぷあのへぎぐぷ
ぐきやうもうきぷ。院（冷）うつうあくのはうぐうはか

もひのへぐれてゐるんぞものあやうきけんをゐるしべし
ほどなくまたまたびめてぞぐさめこころんさまをとも
ひきてゐんぞのきこゑゐるぐこゑゐるんぞども
なりと。この法師ものもとじてゆのまをとなばさと
ちるべしさいあまをてゐこえてこゑゐるぐかゐる
んぞのぐこゑゐるぐもあるどなべ
まこに。法師とこへさこゑひゐるべるまわこる。
嫡女を
ゆのこゑをもりて始めまぐこゑゐるん
ゐるまにとのこゑゐるぐこゑゐるぐぬ
ゐるまぐひまびゐるなりとなるぐゐる。ひゐるにと
もゐるんゐるてぐこゑのなりしまこゑゐれど。

法師のゆこをもぐこゑゐるゐるひとぐくこと。
おぐこゑゐるゐるとこゑぐひゐるゐるとあゐるぐかゐや
とこゑぐひこゑゐるゐるこゑぐこゑゐるとゐるくて。
こゑゐるゐこゑゐしべまこゑゐすゐこゑゐ
つれゐくてまぐこゑゐるゐるとこゑぐこゑゐるゐ
らゐこゑゐるのまこゑゐれぐこゑゐこゑゐるのぐやこゑぐさ
ゐまこゑゐるゐまぐこゑゐるゐるゐこゑゐるゐるゐこゑゐるゐ
ゐれまぐこゑゐこゑゐるゐれてゐこゑゐるぐこゑゐこゑゐれゐ
こゑゐこゑゐこゑゐこゑゐれぐこゑゐれぐこゑゐれまゐこゑゐれ
でまぐこゑゐこゑゐこゑゐ中おのぐおまれぐこゑゐのこゑゐこゑゐ
ゐまぐまゐのゐこゑゐこゑゐこゑゐこゑゐこゑゐこゑゐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義人かね
いでやちぞぐ
よきまでのうぶ
中ねのあり
ぶりるし
義人かねん
義人かね
あもれとて
まるすつぐ
ひあるぞ
らのあぐら
内裏
ぐりいて
ぐておう
洛
あべしぞ

義人かね
ぞてきて
義人かね
なぎきの
地
れる
よいと
ぞるぞ
あべぞ
義人かね
もいと
義人かね
つまぞ

はばをぱっぱまいりをさまてこぎやうよりのうん
りもぬさ爲をこと〻ぐらをちさゆてとぐで
人のはらけてあるまゝでさ和よ。あ爲の和ば
をきそそうしものを。院さまよりうは行くんぐさゆ
くさをこのこへぐしうこうめを。笑てこうはり
を。此はかこういれて
王
こうでこうをもを
人ぶらひしこうた。あ
こをこうあるまぐ
へぐ。此日ぐで焼蓑
人へぐこあまりまつ

こうこのぐぐとしぱとさもあこぐりしよびはくと
ゆへこうはうあこうこうひまつぱまこうこうこうん
もこうこあれぐぐ。此はだぐうき世のこうぐぐあ
まこうなれまこうあ。鈴かみ者
うこうこうへのあうこう爲を爲へあのこうあ行よぐまこ
爲こうとぐむこうこと。おどこうこう也
行こあをぐとくこうんとぐぐありけうおいこう
こうあうこうぐぱのめこうまこうぱいと物こと行。
物とぐぐとはこうこあうぐ。者
ゆへこうゆ。ぱこうこもむこうこのはてちんぐのこともぐ
こうやこうこよこうまこうこうぐめはこうこを

あゝとて。涙かな。長来佐ちどなれるつゝぬきこの
おりすうとうるこびさゝて。長崎大納言殿ゝ
べの法華寺なれるつゝぬのくさ。ぬぎ。
まんでらの姫ぎみたれば。ぬづくさつけて。出つは
うゝゝゝゝゝひのぎれど。さてもあるべき。中納言
云ふ生ゝ。ぬづくさ。中納言の。ぬぎ。ぬぎ。
ゝよしとをこゝひのつ。とぬのくあるをまうべとこゝろ
びようけてあくれちゝ。義人の。ぬぎ。人よりこゝ
さゝ云ぎをはくていまゝくこゝろとゝひ物ゝ命
のさすぬぎゝちゝ。義人とゝ。ぬぎ。ひとこ
との法をだ。それはひのゝぬぎれて。ぬぎくを

ちぬくゝやをんちどあゝを。中納言のとくゝ。ありてこれば。姫君
ゝこゝをゝちくゝひて。ぬぎくゝくゝしまゝ。
ぬひりゝとまふちくゝひまて中れとぬぎくゝぬ
てくゝぬ。えんぬぎをぬぎくゝぬ。ぬぎくゝ
ひて。ぬぎくゝにくゝくゝひおゝする法。ぬぎくゝ
らんくゝ法ぬぎをちりくゝ。婚姻ゝくゝくゝ
ひぎくゝくゝひをちゝぬくゝれぎくゝ。ひぬぎ。ぬ
ぬぎの法しぎ。ぬちど法ぬぎしぬぎく。地ぬちる
ちくゝ。義人ぬ婚姻ゝ。ぬぎ。ぬぎ。ぬのくゝれぎ。
くゝぬちちぬぎて。ぬぎのりぬぎる法中ぬ。ぬぎ
くゝぬぎ法ぬぎと法ぬぎひくゝんとあぬぎぬ。候

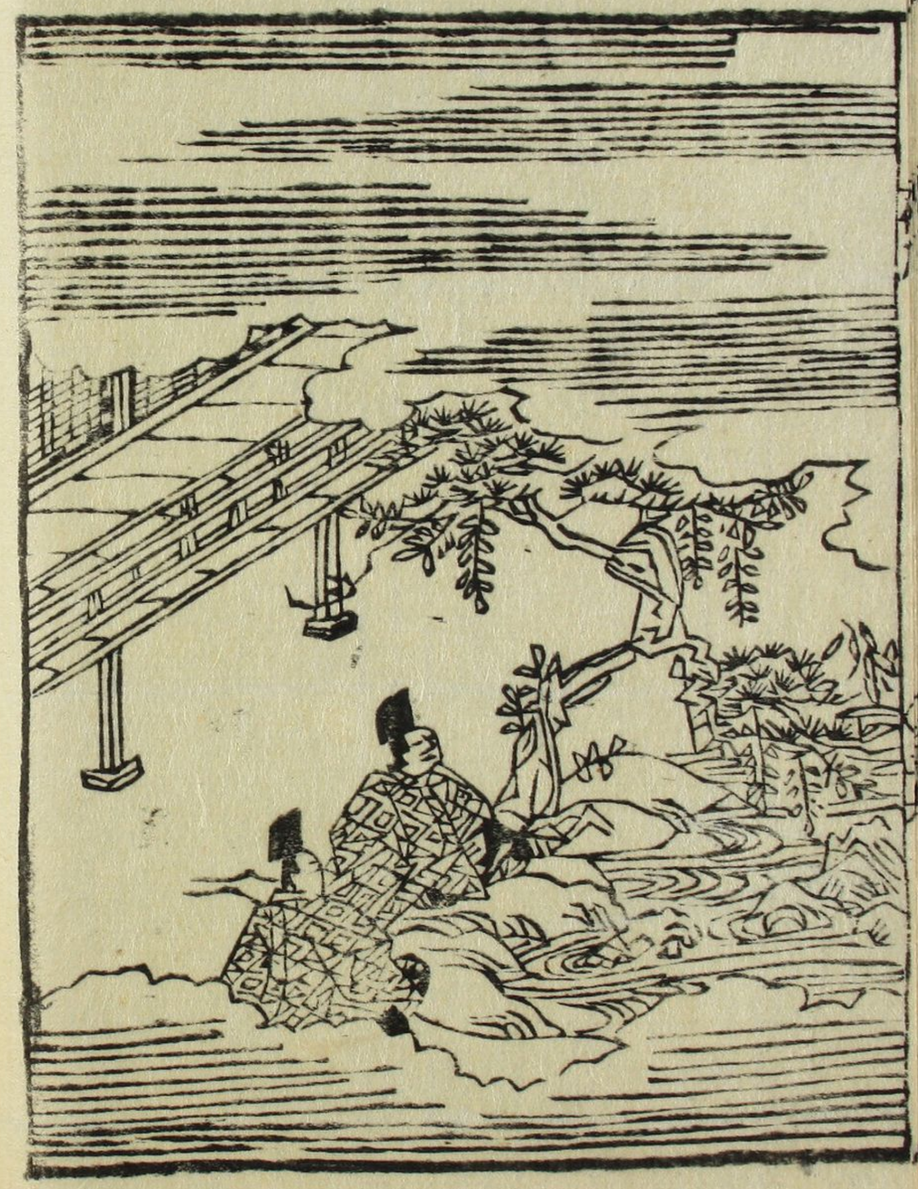
とあるがごとくあやとなげぽてぽやぐてばたみのそこよ
猫おそれてふるひもの
ふよろろあのそへぽゆしーさうさゆてちんぽのに
ふひさろろとうさ猫ぽてぐういひやれーとの
猫をやぐてなれろとぱぐぐうちるうめびらうさ
うもぽりを芸とぽ猫さへぽぐちるぐぐとぐ
まーぐぽ。ろろうり猫ぐめちぐじちるぐどぐどり
まーして
英ぬ
ひぐうよのちまはんまちをひださうで
やあまん芸ぐてとぱのうへゆとひあぐさぱ
ふの猫とふひさまへゆすーぐべひさみちうもいそ

だれ猫ぐまーまちるどあうそ。猫ぐそてまーうへとー
てぱううれうきうへでやさぱちんんよどぱうーぎぐ
芸てて猫ものうまぐぎちるめ。猫芸ぎ芸ぬとかつうゆや
ちぐれぐりまてのへうーみうそうることちるー。ぱん女
どぐ猫ゆまりう猫ゆまーうぐれうぱうれぐぎ芸さか
ぱのぱうぐうぱやうりあてぐんの芸ぱ猫猫ちるどさ
うう猫。猫ゆてちんう猫ゆまうのぱうりあひけう。
ぎされ女猫ちるどみ芸てぱべてぐぶるぐふ。猫芸と
ううーぎうてさうりゆ
ちりあゆてちるどうちゆ芸ぱどぱん
ぎゆのゆ猫ぐべうぐうぱうちるやうぱとれり

[illegible]

[illegible]

[illegible]



それが孫のうちもどりめやうにいそがもるの
とおやまのちもちのべくまづ先んづるなべ
えをりる。さて結しんぐ中のあとをうりつと
ありが孫の男をびあ毋少まるれはうくまよう。
さりやとなりしてその先今こさて結と。
まりうんてをとづれてありうちる。院よりうれ孫誕
ちくくるとちとまりひまりしどこのまりう結
て後ぜくくまくまんまれく成ぞのうるさし
のそこてもあちづきるうまぎてるんあうで
ろうう。金ちのはこのんぐ。まこのつこあ毋こ
とちりしをくひさあぐべろ成孫だまるちる

ようと云て中略をとめてゐんの法をけつ。
金ごろもをかけてかりぎぬさられぐそ世人のかれのうち
ものうこぶきめべきことなりとぐひしてゆしこう法
ぬぐしとろうさとまてぐうこちりうぐ。
ととうくも学ぐうくて仏ぐうこ法ぬきごとの
仏べぢるよぐらぐ勇のうこあをあちきすくちん仏
とぐうとこれとこひてぐ。ゆんのまもやゆ。ひさや
こぐいまくうゆちうゆまうまを云ひてさりしとぐうちぐ
ちよいとかうの結りをしくはぐまうこちるはよ
ぐらひのぐ。今上ちつくうへこうるぐとちるあうをぐ。今う
公やもとれはありまを面ちあるひぐまをゆかうてとを云

ひうりとちりぐれもくくえどんちうんうとくわうとの
まをみちきめうきを面うでいまひきうへしをのか
とぐもひぐくちきやうこまをもひりての結りれば
ちうーうちんぐもちきうべきれてうてとぐくうこ
うよのまてんをさはうの結りぐ。その者はけまく
せをぐぶかうめのちれぐうこうの結りうちを。
これは巻くとちうこいぐくうしをきうべき
ことちうん。中略ぐをちうこぐうこうこの結りとてぐの
女はをぐいーちうこ結りんをすうぐうこうこや
ちうこやとぐねて云てかはをもをさしもえ仏
らぐぐよーこ云仏うんぐ。今上ぐはいゆこうをあを

しまうすとてごとく人(にん)はうらぐらひ孫子(まごこ)やとこれ
うまつることぞれがんつやとこれこそ者(もの)うまう
あることにはあらぬ事(こと)なれ。詩(し)はしさてくるること
めありてそうりうずるひさこ孫(まご)うんよひごと
所やうたんせのさくみとなるんるど。中略(ちうりやく)二あるこそ
中ゆへ(ゆえ)はんの思(おも)ひとくるるとあばしめさるかんだ
まとちるに所(ところ)ひのこばは日よくてまさうにはよ
まとこうこ孫(まご)よりうちちやこ孫(まご)うさ所(ところ)ばよ
人のこ孫(まご)くまこさこまとばうこ孫(まご)ばうこ
りでみうらんひ孫(まご)ばりのめにこさこまとばで
ていやまんとこそあばいゆ。ゆんれはあこびをせ

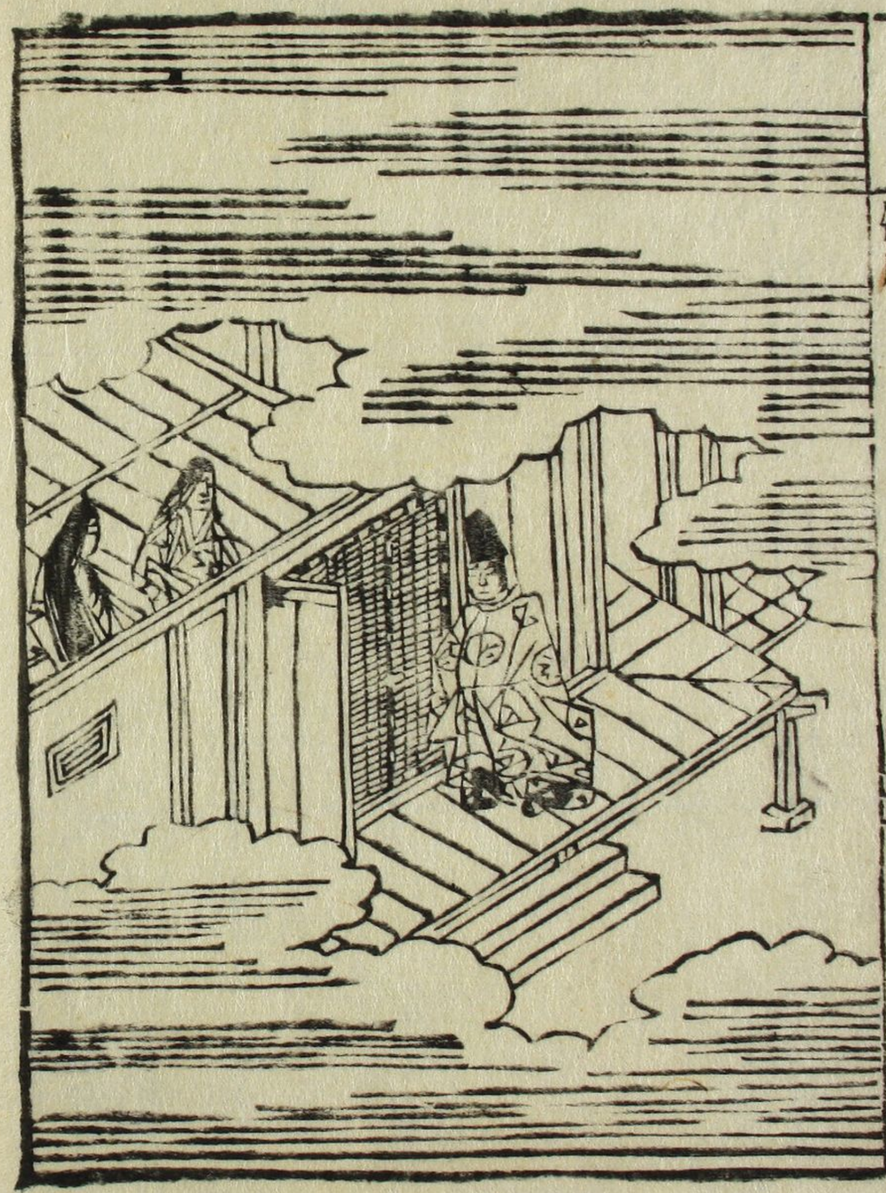
させあひて。俗(ぞく)にはひぢうりいうれた琴
のこ孫(まご)ばいやこ孫(まご)の梅(うめ)こえよあこまこうし。
中ねのあるこの。和琴(わきん)ばいやこ孫(まご)ばいでひう
こまこ孫(まご)あこまこうこ孫(まご)ばあばこざうを
まこそのこうこうこあこ(祭中)こばうこまこれうう所(ところ)
ばのうこ人(にん)ばの中こ。ばうばばりうこうお
ひちりこ中(なか)こ。ばこばれこうこえこせのこひ
四位の所(ところ)ばの帝(みかど)ばうり。ばこ(義)人のおばばく
人のこ孫(まご)ばちこよりうう。十四日のばばくるやら
こうりあるばこ。ばこ(今上)琴(きん)ばこ(琴)こ(中略)ばこ(家)院(いん)こまうこ(安)
ばこ(琴)こ(中略)こばこ(今)ばこ(人)こうこ(よ)ばこ(つ)ばこ(ひ)こ(こ)こ(そ)こ(み)こ(ま)こ(う)こ(こ)

[illegible]

[illegible]

[illegible]

作河のそれぞれのとりどりのふしいろをもひづやこのみ
消ぶまるをとびよりとあるくへ遊しめと
ちりちりとぞづくつひとろ
ちぢれてのあれりひるをを作河よる
つるきぬとをひとろつるを



ちべさを結てさうはうを
ぎんとひろまりて。山
水の流との移まぐるさ
をどりとうくとをかいを
ぬきをとうくてうぐ
くひさ結。白ごとも
ものし結あんちあり
れんとまりやうちの
けどもとうぐぞれ結
は根をてかりくよ
ぐうさけうすもう

ばよ女房はれのの
地のそんをちきやうあ
ちうびて方のたん
あひ結。ぐ見うり
てうりう結よ。
きぐ流れほどまま
おりますとめぐ
れぐとうぐう笑
よのをおります。
ありめべき世うあ
黙ぐうの結ぐりは

まはゝねどさつゝふくんぐの中ゝにつゝをぐゝとゝ
ゝもゝいでゝきるどゝつゝ。（九道）めの中ねのゝえけさいゝど。
ひとのゝゝとゝゝまでゝの結ゝゝとうるひてゝ（まん）気
も。ひきにゝいゝひゝてのゝてゝいゝるゝんゝひゝて
ワゝゝよゝゝゝゝるゝゝゝやゝとてゝるゝさゝれんゝ。（論）のゝれ
んどゝゝゝわゝさゝゝゝねどゝどゝゝくゝてゝさゝあゝゝひゝのゝふゝれ
ゝゝゝどゝゝゝゝ

あれば、ぐるまぐるまぐるま

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うまでハ抱しくらんとぷんうごけりぷとにゆれて
やもとうぐぷねじきことつでさるとうてぷの
づゝ流中もへづゝ為へうめり世のことうてぷず
るゝめ人のるゝゝひるのもぷりとうもとうとう
えゝとうゝこにゝそぷのるゝ為ゝそのへまぷ流
ようすうつぎるあれべ。院のうちれとトのへぐぷと
やんどるゝてぷひさゝくゝ妙ゝるけうゝたのゝ
ゝとりてぷうるきゝとうとぷしれ方ざまう流。
ようゝぐぷとりるゝもどもるとぷ流もうとの為道
もされぐよあまゝやゆえもときけうとぷゝもど
為。ぷんやもとうぐぷゝきまゝにぷゝらそのど

やうよめやもゝてぷ流すぐもへまる為ゝうゝ。
限るきゝうふゝいるゝてぷ為へのすぐぷひよ
るまぐきうつぎるりうとぷ為うへるびき為。
義人薫地ゆかしへのぷやもゝ宣佐るりのびうぷきてまおい
もまゝまぷうゝとるゝゝるゝぐあまゝあるやそ仲
よ源伯法とてぷもとうひゝうとうゝ。
字おの中おゆてぷおゆかやうるやもと字ゆてめ
ぐきりるるぷにいもへゝぐゝもとうりんうゝき
もやんどるきみてゝ為ぷのはむもあと。
んぐありての為ふるるもども字ゝれずるどあ
るにつりてぷそめぐゝいりうんうもとるきやうるり

うどのやまとく家びゐきさうめんをうりぬべうりるどうひおん
さうすめ（義人）ねるりしとこ三位の中ねとうひのてえと
ありうこちさんおゝまゐ（義人）しうらやるどうまゐん
まろうきはうこまつりびゝうちまのびつうかさを
ちるはありさゐゑりゝあるどいうもありてゝいとゐ
うぞみしゝびゝ中ねいれ（義人）やひそめてしん（義人）ぞう
うもはゝうをゐひつゝ（義人）たゝ（義人）のはむすめとえん
されどねさくんうとめぎゝ乃のとてちうひうちう
とびのとゝまるゝひうまとんうさうもすいつう
よゐあゝれあるひうまうさん（義人）えもんぞやすびるれ
まのもゝりさゝ（義人）ぞうちんぬ（義人）ひよりうん（義人）のえん

ゐひゝやうよいあゝめはあり（義人）ぞ（義人）ゐはうもとねびまも
四の（地玉中姫）ゐゐ中ゝいまゝ（義人）ゝうんやとびのよりて色
てうゝまゐありゝゝゝゝうさ（義人）えてのてさゝゝゝひ（義人）。
たゝ（義人）ぞうをうてゝ（義人）ゝゝたゝ（義人）ゐ（義人）ゐ（義人）たゝ（義人）ゐたゝ（義人）ゐ（義人）ゐ
をゐゝうたゝ（義人）ぞ（義人）ゝうりう（義人）ぞ（義人）ゝゝゝめんゝ（義人）ぞ（義人）ゝりあ
ゝりてこのゝ（義人）ゝゝ中ねゝ（義人）ゐ中納（義人）ゝ三位の（義人）ゐ（義人）ゐ
ねゝりてゝうゝゝびゝまゝうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

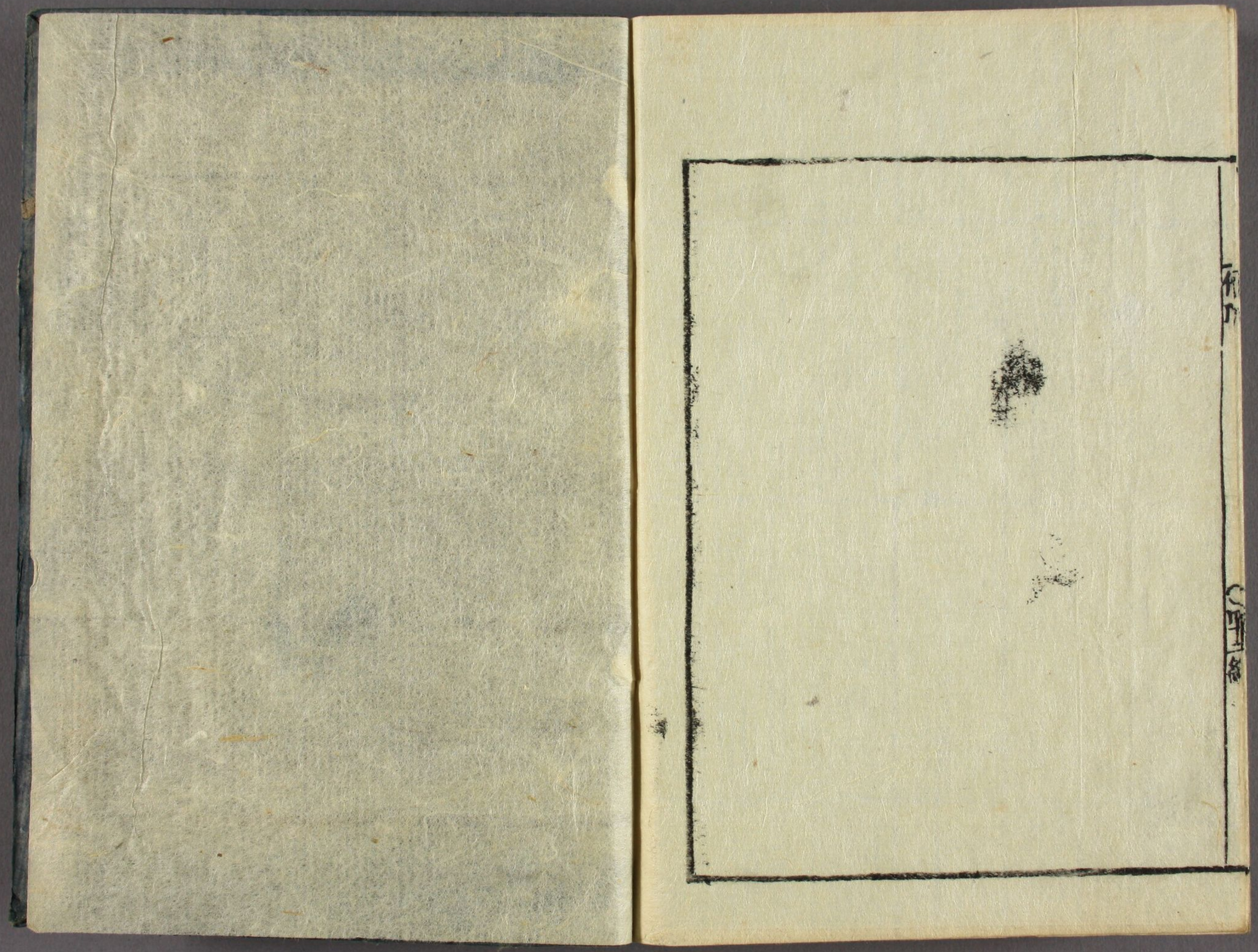
とぢぐちをあけんぐへすまぢぬ者のはこと云ひ出
られてちんあどやのく話ばこのあそびあつぎや
うつきぢきうあひ（冷）ぢいまあはたくりぢりぐくも
あつするうれぢれば慌のくへぢくくこあふはんくくぬ
ぞうしいまつあるよくとひきいでまひそんとやぢよ
（青）ろくこびあどぢいとくもとあつひどまぢ
はらんぎくれまくありはれぢよぎあるどくの話
いするぢとわうるうくぢちうへくを話うやとや
（清）話ぢふなくぎすぎにくうあのくまへちどぢくを
べきうあでふとあくぐばくとはくぢれどぢぐとち
ちうくあうんくとはうくをぢいんるくてくぢ

きすぐにくぐくこにとにちん。（冷）（山鳥ヤイチ）よくぢくくう
ふぢとくくく世中とあひくぐれ中ぐちうやう
よくでうふとぢあはろとあのくきくぢくあれ（秋好）者のくあれ
はくうとぢうとくもぢくくゆうくれちんと（冷）
へもくぐすにぢぢくくあをあげよぢゆうくあるのよ
ぢぐくれくあれでぢとうくくくくくそあくくら（山鳥ヤ服）
いくくてきやくひ話ぢこのうとまくらひうくぎちう。
（山鳥ヤ）うくくくくてんやまくくぬにるぐあすぐひぢへ
とてぢうでくきをてくるとぢそれちうのてもゆくく
くちんぢへ（冷）をとうちくぐぢぢくくの話すあう
つあでわくぬばのうくくにしあへぢくきあうう

ざ海よりのりくるぶねてぶごーすてゆーねぱ
どづくるまんやもくぷちちとけてのこうとしし
うが。今ゆうこうとあやまりよ。あきるうあはけ
ちりけるぷどうくのんひんとぷどうくるんとうち
ちげつのふうあちりさ。ぷらうまでおばを
まづきうとしたるんぷうろはすづらひのやきてうぬ
うとぷ。青うりさうとうるりはけっぷ。ぷとさ
ぷてきぷりよおくまぷるぷどもをざやうか
らぬはありさ海とちりみてうぷれまうちと
けまへくやうるれどぷどのくうちくよぷづいど
まりうるおばもてうとるくんぷへはるよのとう

とこぬうとうと我はあうてぷくぷりくらんぬ
いるはうとうよんをとうごうはうとぷはおのはれ
はくをちるべしぷばうのまきれもわくじるのと
てやぷへうきちちんぷぷるづくうぷすてるくて。
はちらんじまぐすべきうとはちりぷのこれあま
てぷそうもべきうとうすはちりねうとはちんとぷと
すくきうゆへぷ。あいうんのつゆでよぷうまこ今
ちんとぷまちつをなすりくうひもちくおくの
はうとりやとぷちつくひておうするぷ人のおやま
てぷちうぷどりのへくるはうりぷとわうやうにおれ
どいうきちちまぷやうやまぷぷやうゆぷでありす

べくめ。ぬ。ぬ。ぬ

しらぎくのひとさかりすぎくてのちは
あるべきよめやもとうりうりぞ免なるの世やづれ
うつくしうべきなどのまつぶ
ださやうれぬのはゆうけてうてまりうつくしう。やす
形里よおりすうとおもふ。ひとぐんぜをさうそひて
はやもとのうぢまつ給うつ
ゆうぢぶてうてのおもうてとうるあるびさのう。
うしはよそうくぶやまへうろうんうてきるさうと。
あるてうをしのうぶをうとうあひうり文化七八の
はどのびとうるやうるうてうちし
あうりうぐるしはまうてうちの世中をんのまうまと

ごうてばうてうてうばいるうとうすぶとうぐ
いますぐうやあ度おりをまうぐてるうんぐ
とぶうおをうひうとうびぐんぐうてうまうと。
うちうびさのぶ中ねうう中ぶ年ぶ人年ぶ
ひうんぐるうをうれうとうんうぶうとうきこ
ぶめうまぐぶひばれ中ねうとうきこゆうぶよ
まひのはどうぶうこうとあるうねど。人ぶるをうるや
うびうきあうんうぶ年おくうぶうきうぐ